

佐世保の子供 落語で笑顔に

放送作家同級生殺害事件機に指導

人気お笑い番組などの台本を手がけてきた長崎県佐世保市の放送作家、海老原靖芳さん(66)が「子供たちに笑いを」と9年前に始めた「佐世保かっちゃん落語会」が、来月の公演で20回の節目を迎える。海老原さんの指導を受けた小中学生がフロアの落語家の前座として高座に上がり、創作落語を披露する落語会は、毎回600席の会場が完売する盛況ぶりだ。

【綿貫洋、写真も】

来月 20回目公演

「この治療にはいいタンニンが必要だ」「いいタンニンはどこにありますか」「いいタンニン(担任)は〇〇小学校に行けばたくさん見つかります」。佐世保市の公共施設の1室で今月の週末、4人の小学生が来月に迫った公演に向けて稽古を重ねていた。「よくできた!」。海老原さんにほめられると子供たちに笑みが浮かんだ。

「ドリフ大爆笑」「コメディお江戸でござる」など、数々の人気番組の台本を書いた海老原さん。子供も楽しめる落語会を主催するきっかけになったのが、長野県の自宅

と東京を行き来する生活を送っていた2004年6月に佐世保市の小学校で発生した同級生殺害事件だった。

佐世保出身の海老原さんはそれ以来、「古里の子供たちのために何かできないか」と考えていた。「笑いを通して子供同士が仲良くなっていきたい」と思い立ったのが「寺子屋」のような雰囲気の子供落語だった。「かっちゃん」とは佐世保の方言で「仲間に入れ」という意味だ。

子供たちは、海老原さんが培った芸能界の人脈で招いた柳家喬太郎、林家正蔵ら実力派の落語家の前座として出演する。佐世保の方言や地名をちりばめた海老原さんオリジナルの子供落語は、子供にも大人にも人気だ。10年8月から年2回程度続けてきた落語会の運営は、趣旨に共感する高校の同級生ら約30人がスタッフとして支えている。

第1回の落語会から約4年後、海老原さんにとってショッキングな事件が佐世保市で再び起きた。高校1年の女子生徒による同級生殺害事件だ。「また佐世保で」「なぜ?」。14年7月26日の事件発生から5年を迎える今も「事件は防げなかったのだろうか」という思いを抱えたままだ。

それでも古里の子供たちのためにコツコツと続けてきた活動は決して無意味ではないと思っている。「落語で子供を取り巻く問題が解決するとは思っていない。たかが落語だが、されど落語。そこから何かを感じ成長してくれる子が少しでもいればうれし」と。

20回目の落語会は8月25日午後4時、佐世保市体育文化館(同市光月町6)で開演。春風亭一朝と一之輔の師弟が共演し、小中学生7人が前座を務める。大人2500円。残席わずか。問い合わせは落語会実行委事務局0956・32・0888。



子供落語に向け指導する海老原靖芳さん(左)＝長崎県佐世保市の市総合教育センターで